
魔法少女リリカルなのはブレード 外伝

鉄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはブレード 外伝

【Nコード】

N1819U

【作者名】

鉄

【あらすじ】

『魔法少女リリカルなのはブレード』の外伝
変則2本立て仕様

『全知の国の日常』

次元世界の狭間に存在し、今は失われた秘術の眠る地。
其処に住む青年の日常生活。
本編リンク度：今の所希薄

と

『ブレード零』

本編主人公が海鳴市に来る前に起きた事件と不器用な少年の戦いの日々。

本編リンク度：微妙

本編を読んでなくても、大丈夫だと思いますが合わせて読んでいただけたら嬉しいです。

全知の国の日常 Vol.0 (前書き)

まずは、『全知』から。

全知の国の日常 Vol.0

ふわぁ。

ああ、眠くなってきた。

つか、朝かよ！

徹夜なんていつもの事だけど、そろそろ夜型から昼型に戻した方が健康にはいいかもしれない。

体の骨をぼきぼき鳴らしながら、俺は寢床を後にする。

読み終わっている本を小脇に抱えて石造りの廊下を歩く。

太陽は、すがすがしい蒼天を鮮やかに染めながら上がってきている。途中、ネズミ型掃除ロボで頭に「太」と書いてあるのネズ太郎（俺命名）が作動中だったので、おはようと声をかけると、

「ピピッ」

と、挨拶を返してくれた。

しばらく歩くと、およそ石造りの家にふさわしくないスキャナ装置が付いたドアに辿り着く。

さて、今日はいい本がこないな。

手を添え、認証をすませるとドアが開く。

そこは、上も下もない無重力の部屋。

持っていた本を泳がすと勝手に元あった場所へ行くという便利さ。

この俺の城（というか、俺の国）の中心地でもあり、俺が一日一回は訪れる場所。

無限に広がる某管理局御自慢の無限書庫と同等以上の書庫、『全知書庫（俺命名）』。

毎朝9時に更新で、ウチと繋がっている次元世界で発行される本が、電子・紙媒体問わず新書として入荷するなんて、本好きの俺には最高の空間だよな。

さて、今日は……。

ふむ、あまりいいのは無いな。

よし、今日は生産区画を散歩するか。

たまには、体を動かさないかね。

俺は部屋を出て、又廊下を歩きだす。

目的地は、国の南側にある生産プラント。

と、そこに、

「マスター……！」

歩いてきた方向から、飛んでくる犬耳＋尻尾をつけた長い緑髪の小さな美少女。

よっ、おはようと声をかけると、立ち止まり丁寧にお辞儀をしながら、

「おはようございます、マスター！」

といつも通り元気な笑顔を向けてくれる。

ああ、いつもお前の笑顔には癒されるよと、言つとかわいく照れている。

うん、かわいいなあ。

ホントこの子がいなかったら、寂しくて発狂しているところだよ。

「マスター、朝ご飯は食べましたか？」

ああ、そっぴやまだだった。一緒に食べるか聞くと挨拶の時以上の笑顔で、

「はい!!！」

と言うわけで連れだって歩きだす。

歩きながら、今日やろうと思った事を話す。

と、どこからともなく、小型端末（彼女の手に収まるほどのかなり小さなものだが）を出して、報告し始める。

「生産プラントですか？生産プラントは順調に稼働中です！マスターの食料品はもとより、保存食なども随時生産中。すでに時止めの部屋には一億食を超える貯蔵がしてあります。」

い、一億~~~~！！？

・・・しばらく放っておいたがそんな事になっているとは・・・。
んじゃ、生産プラントは俺の食糧ライン以外は止めて、メンテナンスに入ってよ。

「わかりました！現在停止している生産ラインは、食料・衣服・機械となりました。稼働中なのは整備プラント・エネルギープラントとなっています。よろしいですか？」

うん、オッケ。

ただ、いつでも稼働できるようにメンテナンスと警備は通常通りね。
あ、あと、エネルギーの余剰分はいつも通り。

「はい！バッテリーに保存して保管ですね。」

うん、そうそう。いつもありがとうね。

そうすると、携帯端末を顔もとに寄せてもじもじと恥ずかしそうにしている。

「そんな。マスターのお手伝いをするのが私の役目ですから。」

朝から、何回俺を萌え殺したら気が済むのだろう・・・。
話していたら、食堂に着いた。

中からはすでにいいにおいがして俺の空腹な胃をくすぐってきた。
さて、今日の朝ご飯はなんだろうと。

全知の国の日常 Vol.1

今日は珍しく来訪者。

あ、なんか叫んでる。

俺は近くの物陰で遠目と地獄耳になる魔法を自身にかけて、潜む事にした。

「やったぞ！ついに伝説の英知の都、アルハザードに！！俺はたどり着いた！！！」

これで、俺は全知全能だ！！ウハハハハハ！！！！」

うわー。

なんか強面だし、狂喜乱舞してるよ・・・。

おっ、ウチのかわいい子が飛んでいく、4脚の青い警備ロボット1号機（通称ポチ：俺命名）も連れて。

「警告します！あなたは当国に無断で侵入しました！速やかに武装を解除し、うつ伏せになりなさい！！」

それに対し男は、

「はんっ！うるせえ！！」

と、瞬時に短銃型デバイスを起動、早打ちでポチ1号機を制圧する。

やべえ、スゴ腕だ！

お呼びでないほうの厄介な方（しかも男）のが来ちゃったみたいだ。俺、あんまり荒事苦手なんだよな。

というか、手加減が苦手だね。

デバイスをウチのかわいい子に向ける。

ちよ、おまー！ウチの子に怪我させたら怒るぞ！！

「おい！さつさとここの代表に会わせてもらおうか？」

「・・・嫌です！」

怒気を含んだ表情で、拒否するのが気に食わなかったのか、

「そうかよ！」

と、デバイスのグリップ部分をかわいい子に当てるべく、振りかぶるのが見えた。

あ、このヤロウー！

瞬時に、身体強化と飛行魔法をかけた俺は足を踏み出す。

すぐに目の前まで接敵できた。

当たる直前に、左手で止める。

ウチのかわいい子は、迫りくる痛みを和らげたいのか、目を閉じ痛みに備えているその姿は萌える。

うゝ、手がちよつと痛い。

「うお！！？おまえどこから！」

「マスター！」

おまえ・・・不法侵入に器物破損に・・・ウチのかわいいかわい、リーベになにをするんだ！！

ギリリとつかんだグリップを握ると、壊れるはずのないデバイスでもあるそれが、ひびを作っていく。

「うつうつ、やめろおおおおおおお！」

仕方なしに手を放し、リーベを右手で包むように連れて少し離れる。全く、無茶しやがって・・・。

「すみませんです・・・。」

いや、落ち込むな。

リーベはちゃんとお仕事しただけだろ？

エライぞ？

「ありがとうございます、マスター。」

「おい！お前！！何者だ！！」

ああ？なんだまだいたのか？

まあいい、問われて名乗るもおこがましいが、

我こそは、この次元の狭間にあるアルハザードの唯一の人間であり、

王でもある男、

くれは
こたろうときさだ
紅羽 虎太郎時貞であるぞっ！

ちなみに、貴様の名は聞かん！

なぜなら、我の逆鱗に触れた者の名など、このアルハザードに記憶する価値もないからだっ！

侵入者の顔はあっという間に青ざめていくのがわかった。

「まってくれ、俺はソレ（・・・）が王様のだというのを分からなかっただけなんだ！

すまねえ、謝るから許してくれ！！」

ソレ？

ウチのかわいいリーベをソレ？

魔法構築確認・・・うん、死ね。

「お待ちを！お待ちを！！」

紅羽流拳技・碎牙！

俺は魔力を左の拳に纏わせると、振りかぶりそのまま殴る。

そのまま！零距离砲撃魔法・轟竜！！

着弾と同時に相手をふっ飛ばす魔法を発動。

侵入者は、空の彼方へ飛んでいく。

あ、ここアルハザードの土地以外ってそのまま次元流になってるから、正規の手順を踏まずに落ちるとどこへ飛ばされるかわからない仕様になっている。

二度と会うこともないだろう。

ふう、面倒になる前にお帰りになられて良かった。

さて、散歩を続けようか、リーベ。

「はい！」

俺は今起きた事を忘れるように、日常に戻った。

あ、ポチ達は整備ロボットのカイフク君（俺命名）に整備プラントに連れて行かれたようだ。

すぐ直るだろう。

さて、今日は何をしようかな。

全知の国の日常 Vol.1 (後書き)

さて、設定を入れたら、本編書くかーw

全知の国の日常 登場人物設定 随時更新予定

紅羽 くれは 虎太郎時貞 こたろうときさだ

身長170cm 体重72kg

外見年齢20歳前後

黒髪黒眼の生粋の日本人。

紅羽家（対外的には石羽家という）の長男。

本編の140年くらい前（当時16歳）、次元移動の実験中に管理局が定めるところの第97管理外世界から運よく飛ばされてきた。

一度帰ったり、管理局に顔出したりしてるので次元移動が可能。

一応、顔出したときにこっそり魔導師登録をしているが、登録当時は魔導師陸戦Eランク。

符術などを用いて支援・補助系を扱い、先祖伝来の技で遠近戦を行えるオールラウンダー魔導師だった。

レアスキル（符術とか）所持だが、魔力量が低いいためさっぱり話題にならなかった。

現在は鍛錬とアルハザードの秘法などを使って、魔導師総合SSランク相当（ただし登録更新してない）にまで成長（?）。

秘法のおかげで、不老と外見を元の約2・5倍増し（本人談）の遺伝子レベルで格好良くしている。

アルハザード到着当時から、アルハザードには人が住んでいなかった為（探索済み）、アルハザードの王と名乗る。

本好きでやる気がでないと動かない。
プチひきこもり。

能力はおいおい。

リーベ

身長約30cm前後 体重??kg

外見年齢13歳前後

虎太郎の良きパートナーであり、デバイスであり、アルハザードの実質的管理者。

小型の携帯端末でアルハザードのすべてを管理できる働き者。

元気っ娘。

萌え要員。

虎太郎到着当時に、アルハザードの機関部で発見され、起動した。

虎太郎を敬愛している。

呼び方は「マスター」。

自分の事は「リーベ」。

能力はおいおい。

ポチ

青いボディを持つ、4脚の警備ロボ。

外見は、タ。コマ。

リーベと共に対侵入者にあたるも、一蹴される。

実は、思考するロボットであり、よくリーベのお供をしている。

1～4号機まで存在。

武装は主に、粘着ワイヤーや暴徒鎮圧用ゴムスタンガンを装備。他にも、秘法のおかげで魔法弾や砲撃が可能。軽快な機動や対魔・対物装甲を持っていたはずなのが・・・。

ネズ太郎

掃除ロボ。頭に「太」の文字あり。

思考などは無く、挨拶や命令に反応するレベル。

アルハザード国内を掃除して回る。

数は100機ほど存在する。

カイフク君

整備ロボ。

回収・運搬・メンテナンスを行う。

思考はネズ太郎と同レベル。

同じく100機ほど存在。

全知書庫（本名：アカシックレコード）

アルハザードが古代の秘法の都、理想郷たらしめている存在。

上も下もない無重力の部屋。

持っていた本を泳がすと勝手に元あった場所へ行くという便利さ。

アルハザードの中心地。

無限に広がる某管理局御自慢の無限書庫と同等以上の書庫、『全知書庫（虎太郎命名）』。

毎朝9時に更新で、アルハザードと繋がっている次元世界で発行さ

れる本が、電子・紙媒体問わず新書として入荷する。

現在つながっているのが、管理局で言うところの、

第1管理世界

第3管理世界

第97管理外世界

のみである。

検索も簡単にできる。

なお、デバイスであり、意思がある。

虎太郎とリーベの相談相手。

朝が弱いので未登場だった。

秘法

全知書庫と機関部にあるとある装置を指す。

全知の国の日常 登場人物設定 随時更新予定（後書き）

H23・6・19 初稿

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1819u/>

魔法少女リリカルなのはブレード 外伝

2011年10月6日13時54分発行